



暑い夏は、 熱さを持って駆け抜ける！

紅葉の候、皆様におかれましては益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。平素は鴨田あきつ後援会並びに鴨田あきつに対しまして、格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。

さて、6月定例会以降、公私ともに多忙を極めた夏でした。舞鶴市は来年の東京2020五輪おけるウズベキスタン共和国のレスリング・柔道競技のホストタウンであることは繰り返しお伝えしているところですが、市議そして柔道連盟の代表として8月にウズベキスタン共和国へ行って参りました。

夏場は日中の最高気温45度を超える暑い国で、太陽の国とも呼ばれています。代表される産業は農業で、日本でもお馴染みのイチゴやメロンなどは安価でかつ美味しいです。それは余談として、視察最終日にはオリンピック委員会に訪問し、スポーツ大臣、ウズベキスタン柔道連盟会長らと対談し、東京五輪における柔道代表チームに対し、舞鶴市として全力で協力することを約束。ウズベキスタンの文化や歴史にも触れることができた内容の濃い一週間でした。帰国後すぐ東京で開催される柔道世界選手権に出場するため、今度は逆に、ウズベキスタン柔道代表チームが舞鶴へ。一週間の合宿をともし、試合に臨む選手団を東京まで送り出しました。何はともあれウズベキスタン一色の夏でした。

鴨田 秋津



平成30年度舞鶴市一般会計決算等について審議

今定例会では第18号議案から第42号議案までを審議。決算においては次年度の予算編成に反映されるべき内容について中心に質問しました。

=自治会振興交付金について=

各自治会の会長さん方から世帯当たり800円になったことによる不満の声を複数いただいている。試算してみると、再度一世帯当たり900円の助成を復活させた場合、予算としては300万弱必要になる。この経費は削減すべき無駄な経費だったのか。市民、中でも自治会活動を熱心に行っている方々からの声を無視すべきではないと考えるがいかがか。

平成30年度からそれまでの単価を100円減額している。人口減少の中で、市の歳入が減少を続ける中で、災害対応等々もあり、市全体の経費の削減というところでの対応であり、自治会の皆様にもなるべく丁寧に御説明をしながら、御理解をいただいた。それにかわるものとして、地域づくり支援課が中心になり、できる限り御相談に乗るところから対応させていただいている。近年新設された「元気なまちづくり事業補助金」についても、少しずつ制度が認知されてきていると考えている。

※元気なまちづくり事業補助金とは

魅力的で活力ある地域社会の実現を図るため、自治会等が実施する新たな人と人との交流のきっかけを生み出す活動や地域の魅力を向上させる活動を「元気なまちづくり事業費補助金」で支援しています。

補助金の額：事業の実施に必要な額（補助率：2/3）。
補助限度額：50万円

※詳細は舞鶴市のホームページをご確認ください。

水道料金、下水道使用料の値上げについて

令和2年度4月から水料金を現行料金から4.8%、下水道使用料を現行料金から10.6%値上げする条例改正が可決されました。

人口減少などによる水需要の低下に伴い、収入が減少していることが大きな要因です。市の水道施設は、旧日本海軍の軍用施設として整備が開始され、戦後、舞鶴市が管理運営することになったもので、歴史ある施設が現役で使用されています。水道管の法定耐用年数は40年と言われており、今後も安定的なサービスを継続していくとなれば、老朽化した水道管は必然的に更新していかなければならず、そのためには膨大な費用を要すること。

下水道事業については、供用開始から50年の節目を迎え、全市水洗化も目前となっておりますが、整備費用をまかなうために発行してきた膨大な企業債の返済が来年度からピークとなり、非常に厳しい経営をしていかなければならないこと。以上のことから将来のために苦渋の決断として賛成いたしました。

しかしながら、市においては4月からの公共施設の利用料金の値上げ、全国的には10月からの消費増税など、市民生活を直撃する多くの値上げについて、暮らしにくくなるといった率直な市民感情は真摯に受け止めなければならず、今後は市民の皆さんの理解が深まるよう、計画的な啓発活動を行うことや、市民サービスの向上に努めていただくよう要望するとともに、経営改善など、資金の増収策についても鋭意取り組まれるよう要望しました。

運転免許証自主返納者に対する施策に関する請願について

現代社会は車社会で、移動手段として一人1台車を所有する生活になり、益々交通量が増えるのに伴い高齢者による事故が多発し、憂慮すべき状況が生まれている。また人は誰でも高齢者になり、いつまでも運転を続けるわけにはいかず、安全を考えて運転免許証を自主返納する市民が増えていることを背景として

1. 運転免許証自主返納者に対して、近隣他市なみの施策を講じて頂きたい。
2. 運転免許証自主返納者に対して、「運転経歴証明書」交付手数料(1,100円)の助成を復活して頂きたい。

との2点について請願が受理されましたが、**審査の結果、不採択となりました。**

提案理由1については、市では免許の自主返納者のみならず、ほかの高齢者の方々も含めまして、高齢者外出支援事業を実施していることから反対しました。

しかしながら、高齢者外出支援事業の内容については、舞鶴市の地理的特性を鑑みると、議論の余地はあると考えており、またICTを活用した輸送サービスの構築など、別の施策も含めて自主返納をされた方も納得できる内容に改善していくこと、さらなる充実策をご検討いただくことは必要であると考えて、この点要望しました。

提案理由2については、運転経歴証明書は有効な身分証明書となりますが、国においても、市においてもマイナンバーカードの普及を進めており、マイナンバーカードを作れば公的な身分証明書となり、発行も無料です。

いずれにしても、一時の補助金や、一時の特典を付与することは、根本的な解決には至らないと考えます。

討 論

- 表面に記載しました上下水道の値上げに対して
議場で討論しております。

討論は  YouTube で
いつでも閲覧できます



鴨田秋津プロフィール

1981年11月11日生まれ(37歳)

【学歴】拓殖大学経済学部 卒 【趣味】柔道(5段)、魚釣り

【家族】妻・子ども3人(1男2女)

柔道教室で子ども達の指導をはじめ、各種団体で青少年育成活動等を行っています。



終わりに

ウズベキスタン共和国と舞鶴市の歴史を紐解くと、舞鶴市は、第二次世界大戦後多くの抑留者を受け入れた「引き揚げのまち」として知られていますが、当時ソビエト連邦の一部であったウズベキスタン共和国にも抑留されて、約2万5千人もの日本人が送られていました。

抑留された日本人は同国を代表する首都タシケントのナヴォイ劇場建設等に従事しましたが、その勤勉な仕事ぶりや、後の大地震でナヴォイ劇場に全く被害がなかったことなどから、同国では親日感情を持つ人が多いです。

そのような「引揚げがなご縁」から、舞鶴市は2016年に2020年東京オリンピック・パラリンピックにおけるウズベキスタン共和国のホストタウンに登録されました。

冒頭のご挨拶でも触れましたが、私がウズベキスタン訪問から帰国後すぐの8月16日~22日までの間、柔道代表選手団・レスリングジュニア世代選手団が舞鶴へ。当然のことながら、20代でバリバリの国の代表選手。鈍った身体をフルに使って選手団の練習相手を努めました。選手団は25日から日本武道館(東京都)で開催される2019年世界柔道選手権大会に出場するため、都内へ移動。-60kg級のルトフィラエフ シャラフッティン選手がオール一本勝ちで決勝に進出し、銀メダル獲得するなどウズベク選手は大活躍。来年の五輪本番が楽しみです。



編集部 より ひとこと

編集委員のOです。お陰様で鴨田あきつ通信第4号の編集を終えました。9月初旬に鴨田あきつ後援会として初めての納涼会を開催しました。お陰様で120名を超える皆さんにご参加いただきました。大きなトラブルもなく終わることができ、スタッフ一同ほっとしております。と同時に反省点もいくつか見えたので、来年以降の課題とし、今後も鴨田を応援して下さる皆様が気軽に接する機会を作っていければと考えております。気になる点などございましたら、ぜひお聞かせいただければ幸いです。

地域の要望等、些細な事でも構いません。是非お気軽にご相談下さい!

TEL:0773-75-0800 mail:k.akitsu3@gmail.com

インターネットでは、日々の活動をより詳細に更新しています。
ぜひご覧ください。

ウェブサイト <https://kamoda.info/>
facebook <https://www.facebook.com/akitsu.kamoda>
twitter <https://twitter.com/AkitsuKamoda>